

地域の活動や自らの活動を学生さんがレポートする「まなびい探検隊」。今回は多文化共生の活動に取り組む様子をご紹介します。

# まなびい探検隊

in 愛知県立大学

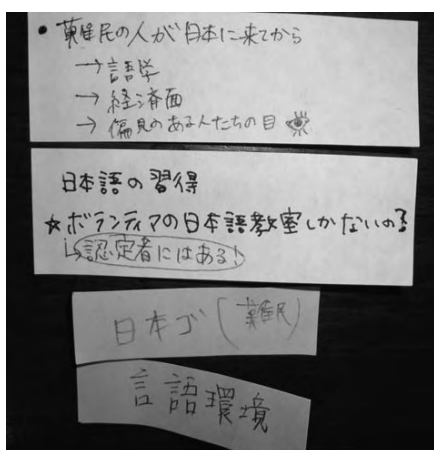


## 愛知県立大学難民サポーターズ ～APURS(アプルス)～

愛知県立大学 羽田野真帆

### 難民問題から“日本の役割”を考える

2009年6月に結成し、現在14名で、”愛知県在住の難民支援を通じて、難民についての理解を深め、難民問題から世界の中の日本の役割を考える”ことを目的とし活動しています。



当初は、愛知県立大学の入試に難民の特別枠を作るという内容で大学に研究企画書を提出しました。結局企画書は通りませんでしたがおかげで、入試の枠を作る以前に、もっと自分たちが難民について理解すること、そして、難民問題について地域の多様な人々と意見交流をする必要があると気がきました。現在は主に勉強、交流、発信の三本柱で活動し、多くのことを勉強させていただいています。

### 勉強

ミーティングで勉強会を実施し、「愛知県在住の難民の問題は何か」「受け入れ側の問題は何か」「支援者の問題は何か」などについて議論したり、シンポジウムや写真展、上映会などに参加したり、名古屋入国管理局で職員の方のお話を聞いたりして勉強をしています。



### 交流

愛知県在住の難民の方々やその支援者の方との食事会、日本語教室の運営および日本語講師としての関わり、名古屋入国管理局に行き、難民の方との面会、難民の方の出身国の伝統的なお祭りに参加し、一緒に伝統ダンスを踊るなどの交流をしています。



### 発信

大学内だけでなく、地域の方とも交流できる大学祭において、愛知県の難民の方とその支援者をお招きし、講演会を開催しました。それと併行して、写真展やビデオ上映会、難民クイズや難民認定に関する説明などの展示を行い、「難民とオーバーステイはなぜよく混同されるのか」「日本での難民認定手続きはどのような仕組みなのか」などについて来場者と共に考えました。

### 日本の未来を担う子どもたちと共に

今後は、難民問題について難民の方々との交流はもちろん、地域住民の方と意見交換をする機会の模索や、日本の未来を担う子どもたちと共に難民という視点から身近な問題を考え、難民問題から日本の役割についてより多面的な理解をしていきたいです。

